

令和6年度第5回小諸市総合計画審議会 議事概要

令和7年2月4日（火）開催

開催日時 令和 7 年 2 月 4 日（火）午後 4 時 00 分から

開催場所 小諸市役所 3 階 第 1 ・ 2 会議室

出席委員 西村廣一、小山真紀、小川省一、横山郁子、山崎幸浩、
柳澤弘蔵、宮沢幸一、手塚光太、後藤理恵、奥田純子
以上 1 0 名（欠席委員：小山田武、竹花長雅、以上 2 名（敬称略））

1 開会 （進行：企画課長）

2 あいさつ

（小泉市長）

皆さま、こんにちは。

本日は、ご多用のところ、またさきほどまでの雪でお足元が悪い中、ご参集を賜りまして、誠にありがとうございます。令和6年度第5回総合計画審議会にご出席賜りましたこと、心から感謝申し上げます。

さて、本題に入る前に2点お話をさせていただきます。

まず、1月31日に長野県から令和6年の人口異動調査の発表がありました。昨年の2月に長野県の人口は200万人を割って人口減少が続いており、昨年1年間で1万8000人ほど減少しました。ただ、社会増は3年連続プラスで、2,660人転入超過となっています。そして、小諸市の社会増減は一昨年289人で長野県内5番目に多く、今回は8番目（人口比率からすると6番目くらい）に多いです。出生数は、昨年226人で、一昨年は206人でした。若干ですが、一割ほど多くなりました。しかし、一昨々年からすると260人いましたので、まだまだこどもが生まれづらい社会になっていると感じています。

それから2点目ですが、先日1月27日に東京の大手町にあります日本経済新聞主催の地方創生フォーラムで30分間講演を行う機会を持たせていただきました。小諸市は社会増が続いたり出店が相次いだりして、全国から注目されているということもあり声がかかったと思います。西村会長にもお忙しい中お越しいただきました。後日、アーカイブでも見られるようになりますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

さて、第12次基本計画ですが皆様にご審議いただき、昨年11月6日に総合計画審議会から答申をいただき、12月議会に上程し無事可決となりました。策定にあたり、皆様にはたいへんお世話になりましたこと改めて感謝申し上げます。本日の審議会は、今年度策定した「小諸市小中一貫教育推進基本方針」を説明させていただき、皆様からご意見をいただく予定です。私は、常々「まちづくりの核は人である」と感じています。人を作る、人を育てる、人材を育成していくという部分で、これからの小諸市の未来を決めていく基本方針について今日ご説明をさせていただきますので、皆様から忌憚のないご意見をいただければと思います。本日の審議会は、今年度最後の審議会であるため、委員の皆様からお一人ずつ、市政に関するご意見も賜りながら進めていきたいと考えております。2年間の任期中において、皆様から多大なるご支援ご協力を賜りましたことに感謝を申し上げ、第5回の審議会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。本日も、よろしくお願いいたします。

（会長）

こんにちは。こちらに来る途中で雲行きが怪しくなり、今年初めての雪の体験をいたしました。本当に寒くなってきましたので、皆様ご自愛ください。

さて、今日の審議会の主旨は、先ほど小泉市長の方からお話していただきました。今年度は第12次基本計画をまとめる仕事を皆さんの知恵を出していただき、出来上がったことを本当にありがたく思っております。我々このメンバーでの審議会は最後になりますので、ぜひ忌憚のないご意見を出していただければありがたいと思っています。

また、先ほど市長の方からお話があった地方創生フォーラムで、私は会場で拝聴させていただきました。素晴らしい講演だったと思っております。全国に長野県小諸市が発信されて、これは素晴らしいPRです。それだけ小諸が注目されています。小泉市長もおっしゃっていただきましたし、講演の中でそれぞれの地域で頑張っている方たちも、最後には人だと言っていました。私も、事業を推進していく場合誰がどのようにしてそれに携わっていくのか、やはり最終的には人によって事業自体の成否は決まってくるとつくづく思いました。

そのような意味でも、今日の小中一貫教育関係の話を楽しみにしております。ぜひ自由に、活発にご意見をいただければと思っています。よろしくお願いいたします。

3 協議事項

(1) 小諸市小中一貫教育推進基本方針について (進行：西村会長)

(会長)

それでは、本日の協議事項は2点あります。まず、「小諸市小中一貫教育推進基本方針」について、今小諸がどのような教育をしようとしているのかについて説明があります。事務局から、よろしくお願いいたします。

(事務局)

昨年の9月に策定いたしました「小諸市小中一貫教育推進基本方針」について、説明いたします。この経過につきましては、校長会においてもずっと議論してきており、小諸市の子どもたちの学びを推進していくことに一番注力して検討してきました。その結果が、今回のビジョンの中に記載させていただいている「対話と協働の学び」に主眼を置いて推進していくということです。それを推進していくためにはこの同じタイミングで学校再編について進めて、芦原中学校区においては施設一体型の義務教育学校にするということを、正式にこの推進基本方針の中で謳ったということでございます。それでは、教育委員会学校教育課の高柳主幹指導主事から説明いたします。よろしくお願いいたします。

(事務局)

パワーポイントを使いながら、資料「小諸市小中一貫教育推進基本方針」について説明。

(教育長)

本日はこのような場で、「小中一貫教育推進基本方針」について述べることができましたことについてまず感謝申し上げます。さきほど高柳主幹指導主事がお話したように、学校に

学び合いの世界を繰り広げられるということと、こどもたちには当事者意識を持ってもらい、明日も学校に行きたい、学校に学びに行くということをいつも背負って学校へ来てほしいなと思います。そして、こどもたちを育てる立場にある私たちが、授業では一分でも一秒でも早くこどもたちのスイッチを入れるということが使命だと考えています。そして最後に、競争原理ではなく、協力原理をしっかりと学校に位置づけたいとそんな思いでいっぱいです。皆様からご意見をいただいたものをさらに精度を高めて、今後の教育活動に生かしてまいりたいと思いますので、本日はよろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。教育論は皆さんもご自身の経験から、また、こどもさん・お孫さんを通して、それから近所のこどもさんたちを通して、いろいろな思いを持っていらっしゃると思います。今、高柳先生からご説明していただいたことについて、それからまたご自分が持っている教育に関するお考えでも結構です。何かありましたら、遠慮なくおっしゃってください。お願いします。どうですか。

(委員)

大人がやろうとしていることを、学びの主体であるこどもたちが私たちと同じ意識を持って前に進むことが一番大事だと感じました。

(委員)

私は小諸で、小学校から高校まで過ごしました。その教育形態が変わって、孫がこのような教育を受けていくのだなと思いながら、拝見させていただきました。こどもたちはここからがスタートなので、我々大人がどういうふうフォローしていくのか、これがいい方向であるということを信じつつ、これから特に芦原中学校区と東中学校区の義務教育学校になるタイミングも変わってきますので、そのあたりも見守らせていただきたいと思います。

(委員)

私も県立高校の再編に携わっていたことがあるので、ここまで到達するまで非常にたいへんだったと思います。対話と協働の学びの充実などは、既に始まっている部分もありますが、高校でもこのような方向で進んでいくのではないかと思います。小諸市の小中と一緒に、高校もあわせて12年間を見通した学びができればいいなと感じました。

(会長)

不登校について、どう対応していくべきでしょうか。

(委員)

不登校は、かなりの人数がいます。高校では、不登校であっても在籍している高校での学びを継続させるための支援をしていくのが重要として、例えば教室でなく、学校のどこか別の場所あるいは自宅でとか、教室以外の場所で、オンラインの授業を受けることで出席に変えることが全日制でも可能になりました。さまざまな事情を抱えているが、学びたいという気持ちを持ち続ける手立てを講じていきたいと思いますというのが今の考え方や進め方になっています。

(会長)

内申書に欠席日数を記さない方針のところも出てきました。不登校に対する考え方自体が、本当に変わってきたなと思います。

(委員)

今日、小中一貫教育ビジョンの話を聞かせていただいて、本当にこういう教育が受けられる学校なら、こどもを通わせたいと思いました。実現するためにどう具体的に動くかがやはり重要で、グループ学習やこども主体の学びへの転換していくのが難しく感じる先生方もいらっしゃると思います。先生方の考え方のシフトやサポートをどうチームで進めていくかお伺いしたいです。

(事務局)

それぞれの先生が固定観念を持っていて、何十年も培われてきた経験によるスキルや自信を持っているので難しいところはあります。そこで、「対話と協働の学び」の第一人者である佐藤学先生や、そういう研究を全国でご指導されて中心になって進めておられる先生をお呼びし、研修を行い、子ども達にどんな影響があり、何が良いのかを学んでいただき、その後は各学校の学年主任の先生が中心となって進め、こどもたちの意見を取り入れながら進めていくという、ステップを踏みながら開校までに準備を進めていきたいと思っています。

(委員)

企業の人材という観点から少しお話をさせていただけたらと思います。以前は私の会社もトップダウン型でした。会社の買収もあり、ボトムアップ型でスタートしたが、前の癖が抜けず、自主的に動いていないという課題もあります。教育もうまくいかないところがはじめはあると思いますが、長い目で見てメリットを活かして、乗り越えて進めてほしいと思います。会社に就職して、電話ができずメールをしようとして、仕事が進まないという人もいます。ぜひ、社会性も学びとして取り入れていただくと優秀な人に育つと思います。

(副会長)

一斉授業で学んできましたが、自分の思いを言語化することがあまりありませんでした。

社会に出ると主体的に動いたり、意見を述べたりすることがとても増えてくると思います。小中一貫教育推進基本方針はすばらしく、このような授業を受け主体的に動ける子ども達が育ち、自分の思いをしっかりと言語化でき、社会に求められる人材になっていくと思うので期待したいと思います。この取り組みが、東中学校校区は後からになりますので、同じ市内で差が出ない形で進めてほしいです。

(会長)

ほかに、ご意見はございますか。先ほど申し上げましたとおり、教育論は、議論し始めたら時間が足りなくなりますね。日曜日の夜9時に、御上先生というテレビドラマをやっていますが、今後の教育はこうあるべきだということを示唆しているように感じます。良かったら、ご視聴ください。では、次の議題に進みたいと思います。

(2) 市政に関するご意見について

(委員)

新校について、軸になるものができたところで、進めていく際に決めていかなければいけないことが多くあると思います。保護者もまだ自分事になっていないところがありますので、保護者やそのほかの方にもこれから考えていただく必要があります。地域への説明も微力ながら協力したいと思います。

市政について、総合計画、基本計画が全てにつながっていると感じました。1つがうまくいけばいいというものでもなく、相互的にうまくいく必要があると思います。市のことを知らないという意見を言うことができないと思っていますので、とても良い機会をいただきありがとうございます。

(委員)

理由は様々ですが、不登校が数多くいるという発表がありました。小中一貫になり、芦原校区へ入学したお子さんが不登校になったら、9年間学校へ行かなくなり、教育を受ける機会がなくなってしまうということもあるのかと心配になりました。こどもの自殺者数が多いという発表もあり、こどもは多感な時期で、悩みを相談できないので、先生のほかにカウンセラーなどの体制があったほうが良いと思います。いろいろ模索をしていくことになるかと思いますが、よろしくお願いします。

市政について、昭和29年に小諸町から小諸市になりました。私は70年間ずっと小諸市民ですが、もっと小諸に住みたい、行きたいというまちになるよう、区長会としてもいろいろなご意見をいただきながら、人口の自然増に向けて微力ながら協力をしていきたいです。

(委員)

1つ目として、新校で1カ所に集まるが、こどもたちが足を運んで集まれる公園などがあ

まりないので、学生が自由に集まることができる場所を考えてほしいと思います。

また、2つ目として、貴重な夏に、楽しみにしていた市民プールがなくなってしまったとても残念です。こもテラスと連携しながら、市民プールが復活できればいいなと思っています。

(委員)

私も市長、部長と同じ世代で、新幹線が通らなくなり衰退してしまった小諸が、人が育って元気になってきました。小諸の未来の計画を見せていただいて、小諸が元気であることが評価されている点、すごいと感じました。盛り上がっているときがあれば、衰退の時期が来るかもしれません。それをどう乗り越えていくのか、人を育てることを含めて政策に力をいれていってほしいと思います。

(会長)

50年前のまちづくりが、今日につながっています。今のまちづくりは50年後に成果となります。長い目でみていかなければなりません。神奈川県横須賀市は、坂が急で高齢者には優しくないとの理由もあり、人口が減ってきていました。しかし最近では、坂からの眺望が素晴らしいとの理由でお店をしたい人が増えてきているようです。時代が変わり、まちも移り変わっていきますが、小諸市としてもまちの良さ・宝を大事にしてまちづくりを進めてほしいです。

(委員)

人口減少等の課題を解決するために、子を産み育てることばかりを進めると、生きづらさを感じる人（こどもを持たないDINKSの方々、未婚、同性パートナー等）がでできます。子を持つことが推奨されると、自分達に価値がないのか思ってしまう人もいると耳にしました。少子化の解消とは逆行してしまいましたが、どういう選択をしても小諸に行くと幸せになれるというようになれば、幸せになれるまちとして人が集まってくるのではと思います。

(委員)

1つ目ですが、新しいお店がたくさんできていますが、なんだか入りづらくないでしょうか。一度、お店に入ってしまうえばいいのかもしれませんが、ぜひ、そのようなところを工夫していただきたいです

2つ目は、この審議会に入る前は、「ウェルネスシティこもろ」もわかりませんでした。一般の方も同じだと思います。市政に、市長の手腕が生きていると思います。トップが決め、職員はそれにしたがって仕事をして、よい結果に繋がっているため、頑張っ欲しいと思います。

3つ目は、職員の皆さんにですが、10年前に比べて小諸への思いが熱くなってきている

でしょうか。恐れがあると、人間の思考は停止され発展しません。小諸市民が安心して暮らせるまちが、今後の発展につながっていきます。過去から学び、史跡等を大事にして発展を、計画に沿って進めていると思います。これからも協力していきたいです。

(委員)

小諸に開業した企業の職種に偏りはありますが、5年で70店舗が開業したという話がありました。県内の廃業・倒産数等は、2024年33件、2023年は15件です。新陳代謝を高めることで、まちに活気が出てくるので、続けていただきたいと思います。

前回、まち・ひと・しごと総合戦略の話があったが、2014年に地方創生がはじまり、その初代大臣であった石破さんが現在の首相です。今でも、首都圏への人口の流出は止まっていません。円安の進行により熊本の半導体の成功やインバウンドが急増、地方の観光資源の発掘により、ビジネスチャンスが生まれると思います。基本計画のKPIに沿って政策を進めて、小諸を活性化させてほしいと思います。社会増への挑戦、首都圏への人口流出を防ぎ地方回帰を進め、多様で魅力的な就職の機会や人口を増やす魅力あるまちづくりをお願いしたいです。われわれも、民間として一緒に協力して頑張っていきたいです。

(委員)

私は東御市出身で、小諸市のまちは、まち自体が歩いて楽しく、昭和レトロもあり、今どきのお店もあり風情があると感じます。まちの市街地以外にもワインやウイスキーなど大人にとって魅力的です。

昨年11月、小諸商業高校の探求の授業で、市役所の皆様にも出前講座をしていただきました。生徒たちがインタビューをした成果を冊子にまとめました。高校生の感覚で、「おしゃれなお店はあるけれども入りづらい。高校生が普通に楽しめる場所があるといいな。」という意見もありました。高校生自身もどのようなまちにしたいか、考えを深めていく必要があると思います。これからも、小諸市のまちづくりに、高校生の視点も取り入れ、意見を聞く機会を設けていただきたいと思います。

(副会長)

26年間、小諸に住んでいます。当時は閉塞感や停滞感がありましたが、今の小諸は元気になっています。市長を筆頭にまちづくりをしていて、民間の人もがんばっています。できるだけこのような状況が長く続き、あらゆる人が幸せを感じられるようなまちにしていきたいです。小中一貫校になり、小諸の教育が良いので移住したいという人が増えるようになればいいなと思います。

(会長)

総合計画の政策は6つあります。その一番目に「子育て・教育」がきています。その重み

を考え、それぞれの施策を考えていただけたらと思います。人をどう育てていくかが重要になります。よろしくお願いいたします。皆さんから行政に対する思いをお話していただきましたが、なにかコメントがありましたらお願いします。

(市長)

激励とご意見ありがとうございます。教育と人づくりは重要と考えています。来年の4月に開校する小諸義塾高校と、令和10年に開校する芦原中学校区の小中一貫校の義務教育学校は、小諸市にとってこれからの人材を育成していくターニングポイントになります。「対話と協働の学び」を取り入れた義務教育学校は、不登校に対しても一定の成果があがっているので、市民の皆さんにもご理解をいただきながら進めていきたいです。

新しい店が入りづらいというお話がありましたが、小諸商工会議所で「こもろグルメマップ!」を作成しました。お勧めのメニューも載っているので、市民の皆さんにも知らせることができるので、お店選びの参考にしてもらえればと思います。新規出店があれば、倒産する店もありますが、コロナ禍を経て考えると、他の自治体はお店が減ることはあっても増えることはないという中で、小諸のお店は元気があると思います。これからも、企業誘致・新規店舗の入込を促していくとともに、民間の力も入れて進めていきたいです。

また、こどもが生まれる社会を目指すうえで、少子化対策と言われると、女性はプレッシャーを感じるという意見がありました。そのため、さきほどの地方創生フォーラムの資料の中の「少子化対策」を「自然増による明るい未来」に変更しました。昨年1月の選挙のミニ集会の際に指摘をされ、この表現に変更しています。結婚するかしないか、こどもを産むか産まないのかを選択するのも個々の考えを尊重することが大事で、若者をはじめすべての人が幸せに暮らせるまちの中でこどもが生まれ、子育てを支援していきたいです。

あと、小諸に対する愛があるかという話ですが、我々は愛があり、小諸にとって熱い思いを持って市政に取り組んでいると思っています。1つの例として、さきほどのフォーラムの資料でもありますが、まちづくりを進めていくのに、市の職員の意識改革から始めるのは聞いたことがないと言われました。個々で考えることが重要で、正解が何なのかみんなで考えていく。トップが必ず正解を持っているとは限らないと思います。そのことによって、市の体制が変わり、企業誘致にも繋がっていています。小諸に対する熱い思いがある職員に感化され、小諸に移住してきた人がいるということはあるがたいです。

この間、委員の皆様には貴重な意見を賜りましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

4 その他

特になし

5 閉 会